

子ども議員にインタビュー



「市の施設はなぜ月曜日が休みなのですか」と鳥居松小学校の木村幸菜さんは、市長に質問しました。考えてみれば確かに、と思わせる質問でした。「市民の皆さんが施設を利用するのは、土日が多いので月曜を休みにした。また、休みを統一した方が市民の皆さんに分かりやすい」と市長は答弁しました。

議事が終わった後、木村さんは、休みを一緒にした方が利用しやすいのだろうか、と施設のあり方に興味を持った様子でした。



スポーツに興味がある岩成台小学校の平松律士くんは、「市内で利用できる市のスポーツ施設やイベントはないのか」と質問した。

市長は、「文化やスポーツを広める計画が進んでいる」と説明。施設は総合体育館、温水プールなどがあり、イベントは新春春日井マラソン大会などがあると答弁した。



平松くんは、緊張したけど詳しく答えてもらえたと満足げに話していた。

(中学生記者・森田 智里)

(中学生記者・脇 綾花)



最後に子ども議員の皆さんで決議を採択して終了しました

「人と地域の絆をいつくしみ、輝く未来へつなぐ決議」

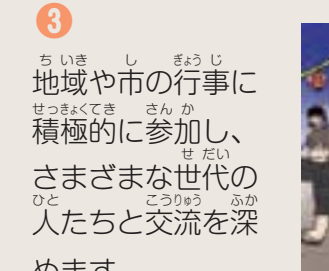
私たちは、春日井市制70周年を契機とし、笑顔に満ち、魅力あふれる春日井を、次の10年、さらには、その先の輝く未来へと託すため、次のことを心がけ、人と地域の絆を大切にしていきます。



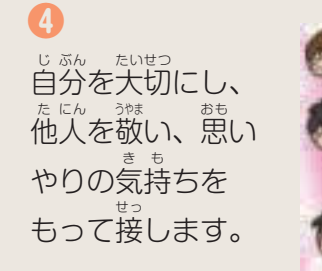
1 家族や友だち、地域の人たちに、気持ちのよいあいさつをします。



2 美しいまちを守るため、学校や地域の清掃活動に進んで取り組みます。



3 地域や市の行事に積極的に参加し、さまざまな世代の人たちと交流を深めます。



4 自分を大切に、他人を敬い、思いやりの気持ちをもって接します。

取材を終えて～記者を体験してみたの感想



中島春野さん(東部中2)

「私に記者なんてできるのだろうか。」と最初に思いました。文章を書くのが下手で口下手な私には絶対向いていないと思いました。

しかし、実際にやってみて大変なこともあるけど楽しかったです。話したことなどを要約して書くのはどこを要約しようかと困ったときばかりでしたが、その中でも話を簡潔にまとめる力が少しはついたような気がします。

記者という、新しい経験を生かし、これからも頑張りたいです。

森田智里さん(高森台中3)

記者の仕事をやってみて、本当にエネルギーを使う仕事だなと思いました。人の話を聞いてメモを取るのも難しかったけど、一番難しかったのが、インタビューです。その人の話を聞き、理解して質問するっていうことが思ったより大変でした。

中日新聞記者の蓮野さんが実際にインタビューをやっているところを見て、すごいなと思いました。自分がちゃんとできているか不安になりましたが、蓮野さんにアドバイスをもらい助かりました。



脇綾花さん(坂下中2)

記事ができるまでにたくさんのお話を聞いておこななきゃいけないのだと思いました。今までは少し聞いて、パッと終わらせるものだと思っていたので良い経験ができたなと思います。始めは早口で話す子が多くてメモが追いつかず、聞き逃すということがありました。終わりの方になると、慣れてきてだいぶ書けた気がします。

インタビューした内容を記事にすることも楽しかったです。



中学生記者が見た子ども夢議会



今回、子ども夢議会を特集するのに、同じ年代がどう感じたか記事にしようと思った。中学生記者を募集しました。応募のあった3人は、前日に中日新聞の蓮野記者から取材の仕方、記事の書き方について教えていただき、当日の取材に臨みました。

とても静かで厳粛な空気の中での議会だった。子ども議員は入ってきたとき、すごく緊張した様子だった。傍聴する人も心配そうに見ていた。自分の番が来るまで原稿を見ている議員が多かったが、自分の番が来ると大きな声で返事をして堂々と壇上へ上がった。自分の意見や質問をはきはきと述べていた。

市長が答弁しているときもしっかりとメモをとりながら聞いていた。市長も小学生の議員に分かりやすく、ゆっくりと話していた。

室田伊緒さんの講演にも、議員はしっかりと耳を傾けていた。

(中学生記者・中島春野)